

2003年度中間期 (2003年9月期)
業 績 概 要

日本ビクター株式会社

2003年10月27日

1.減収ながら、営業利益・純利益増益確保

- ◆営業利益：103億円 (4/25公表90／前年89億円・前年比115%)
- ◆純利益：35億円 (4/25公表30／前年14億円・前年比253%)
- ◆ソフメディア事業の増益 (24億円／前年6億円／前年差＋18億円)

2.米州、国内民生販売の苦戦

- ◆米州：DVC (前年比136%) が健闘するも、CRT-TV (55%) が低迷
- ◆国内：期待のデジタル新商品投入で挽回するも、
アナログ系従来商品の落ち込みが予想を上回る

3.デバイス事業の不振

- ◆営業利益▲12億円 (前年0億円/前年差▲12億円)

【連結】

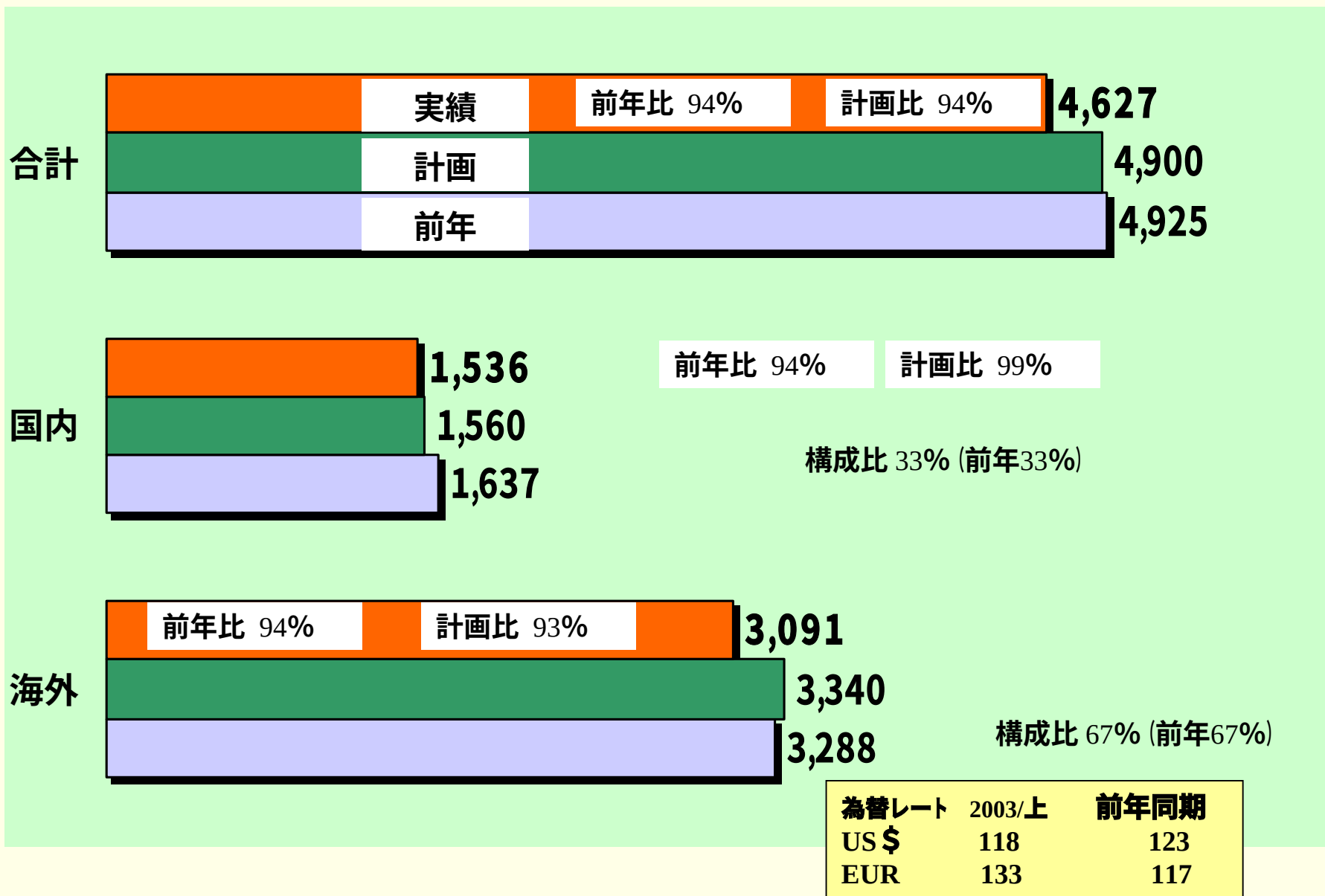
(億円)

	実 績	4/25公表	前年実績	公表差	前年差
売上高	4,627	4,900	4,925	(94%)	(94%)
営業利益	2.2% 103	1.8% 90	1.8% 89	13	(115%) 13
経常利益	1.6% 73	1.4% 68	1.2% 60	5	(122%) 13
純利益	0.8% 35	0.6% 30	0.3% 14	5	(253%) 21

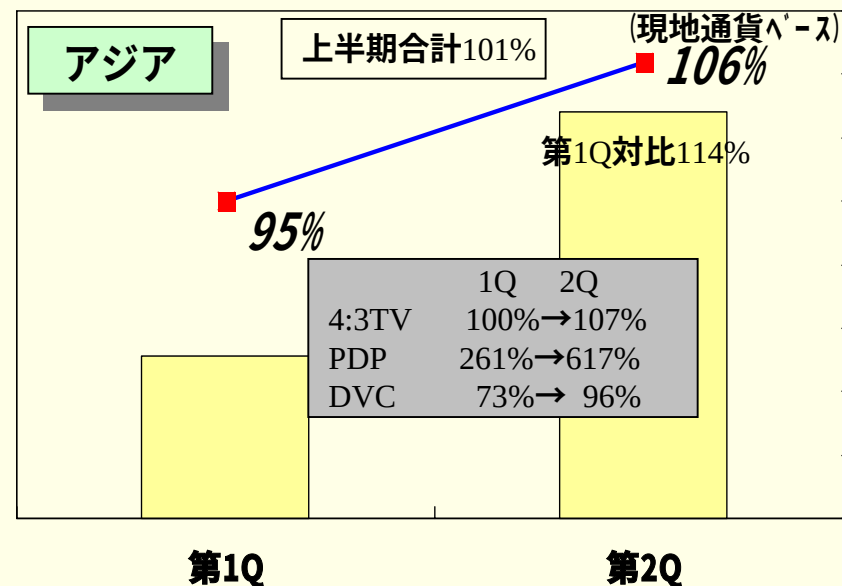
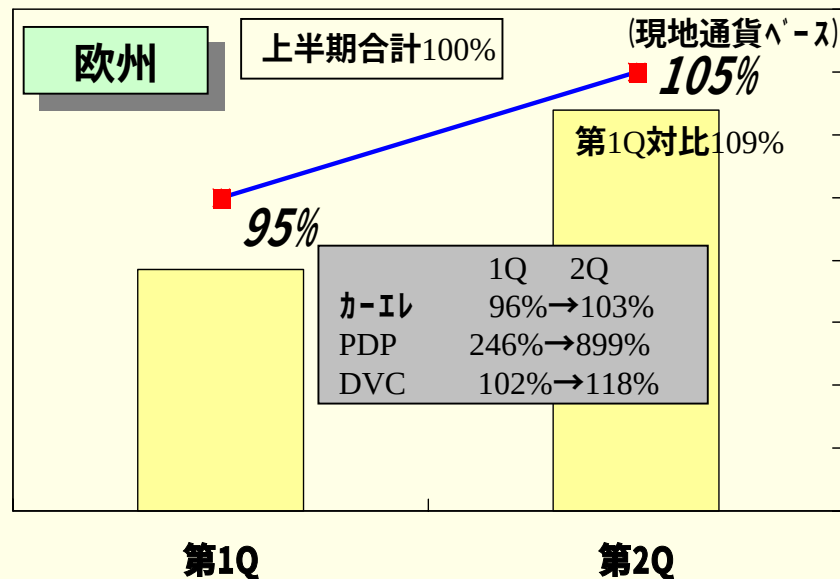
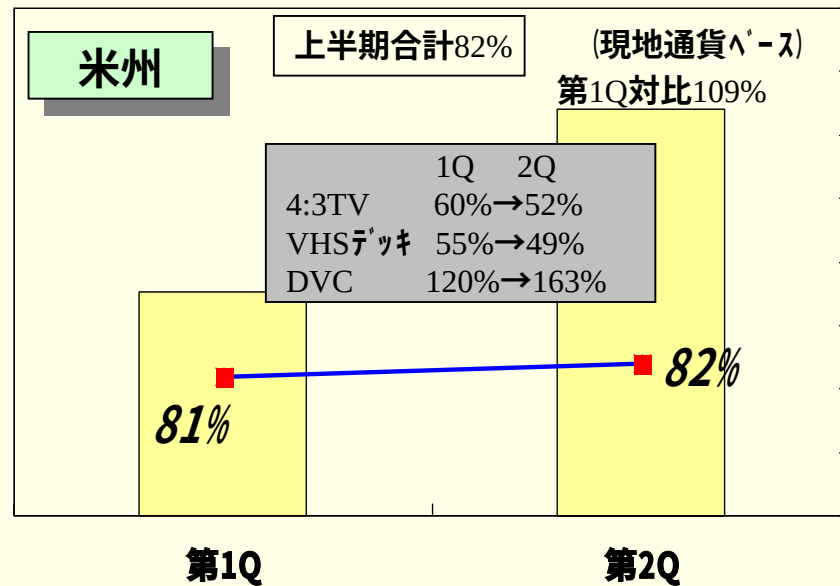
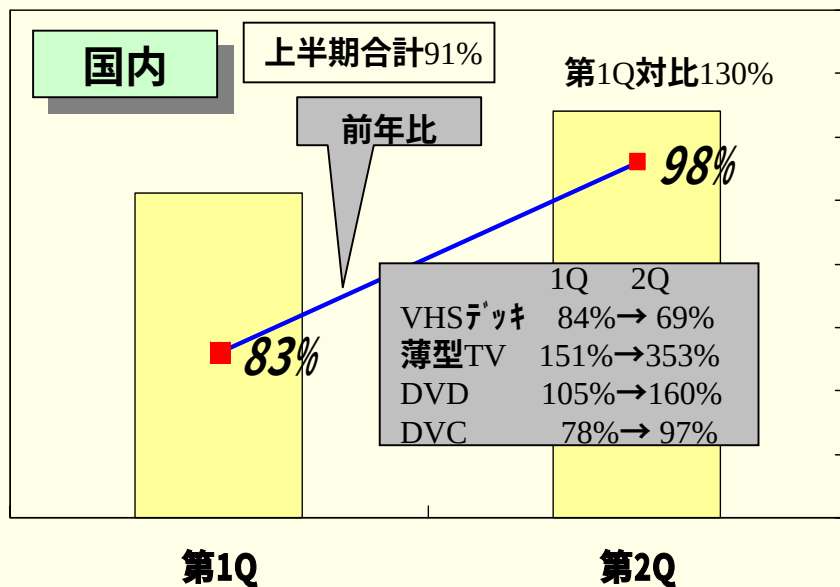
【単独】

	実 績	4/25公表	前年実績	当初差	前年差
売上高	2,543	2,505	2,765	(102%)	(92%)
営業利益	2.5% 64	1.8% 45	1.6% 45	19	(143%) 19
経常利益	2.1% 53	1.8% 44	1.4% 38	9	(137%) 14
純利益	1.5% 39	1.3% 33	0.7% 19	6	(204%) 20

2003年度上半期 販売状況



2003年度 上半期 民生の販売状況 (前年伸長)



2003年度上半期 損益増減分析 (前年差)

前年
営業利益 89.4

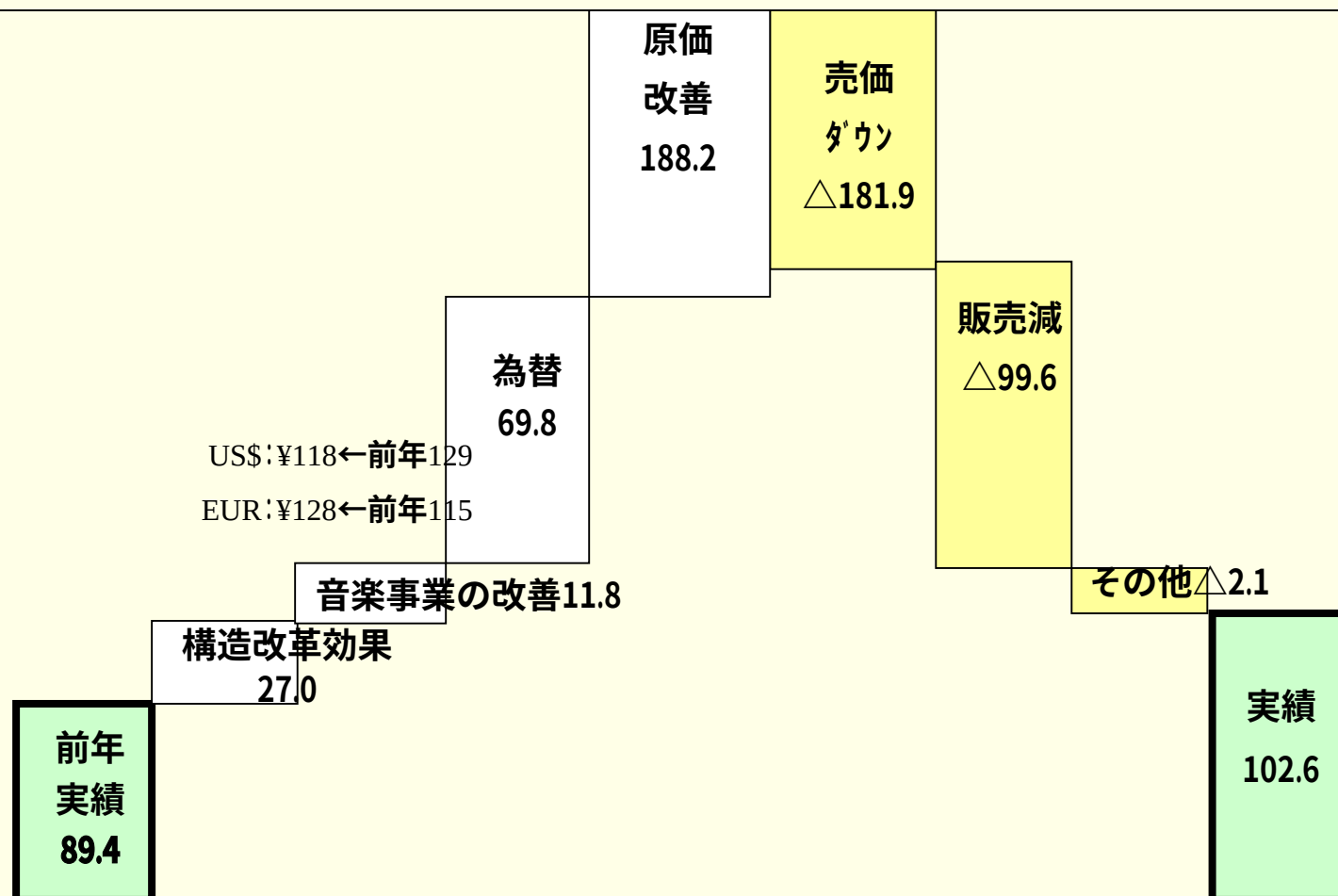
利益増加要因

前年差 +13.2億円

実績
営業利益 102.6

(億円)

利益減少要因



【事業分野別】

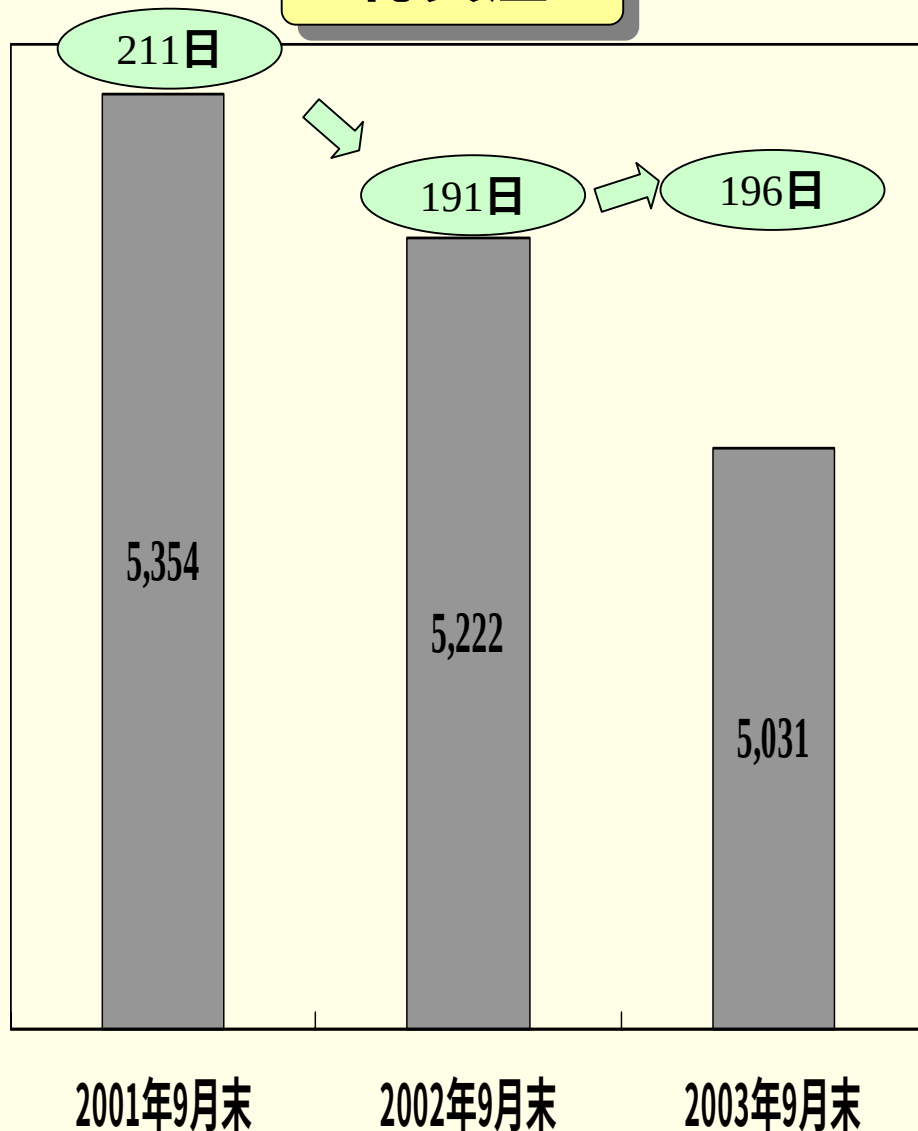
(億円)

	第1Q			第2Q			上半期		
	実績	前年	前年差	実績	前年	前年差	実績	前年	前年差
民生	41	55	▲ 14	65	54	11	106	109	▲ 3
産業	▲ 18	▲ 22	4	6	▲ 2	8	▲ 12	▲ 24	12
デバイス	▲ 3	▲ 2	▲ 1	▲ 9	2	▲ 11	▲ 12	0	▲ 12
ソフト・メディア	6	▲ 8	14	18	14	4	24	6	18

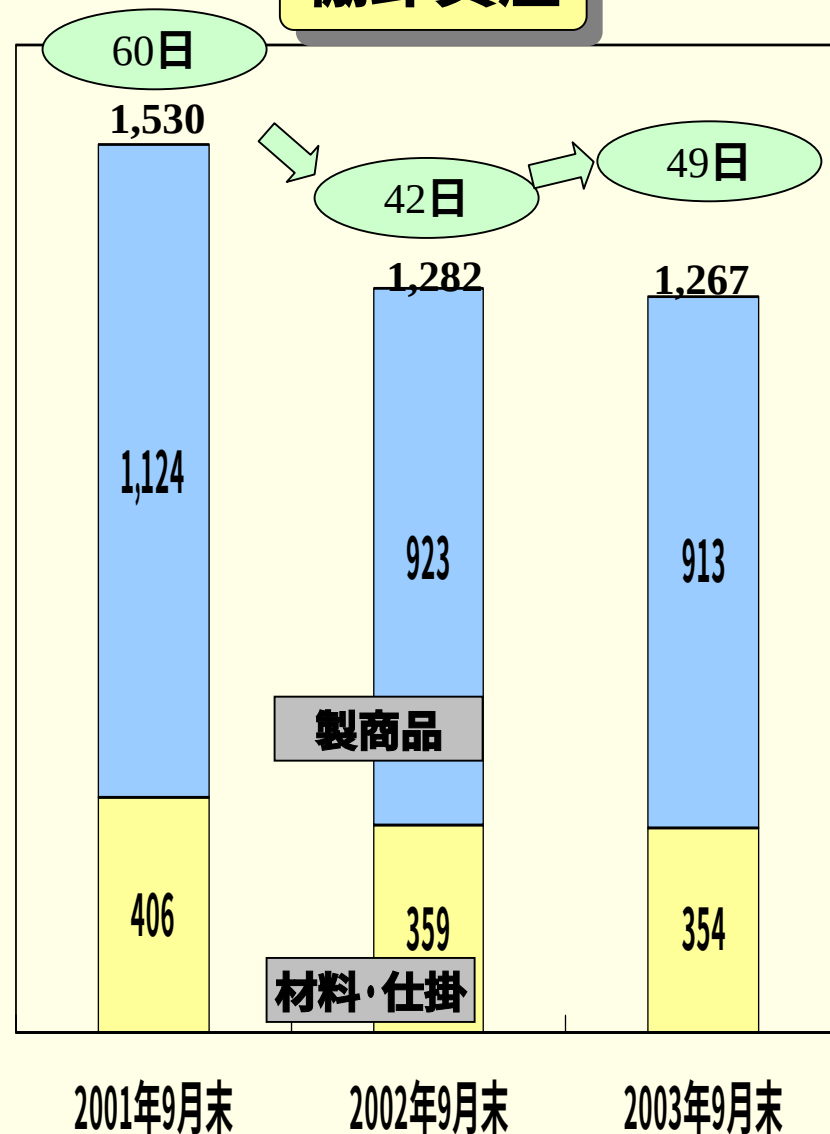
2003年度上半期 総資産の状況

為替レート	2001/9	2002/9	2003/9
US\$	119	123	111
EUR	109	120	129

総資産

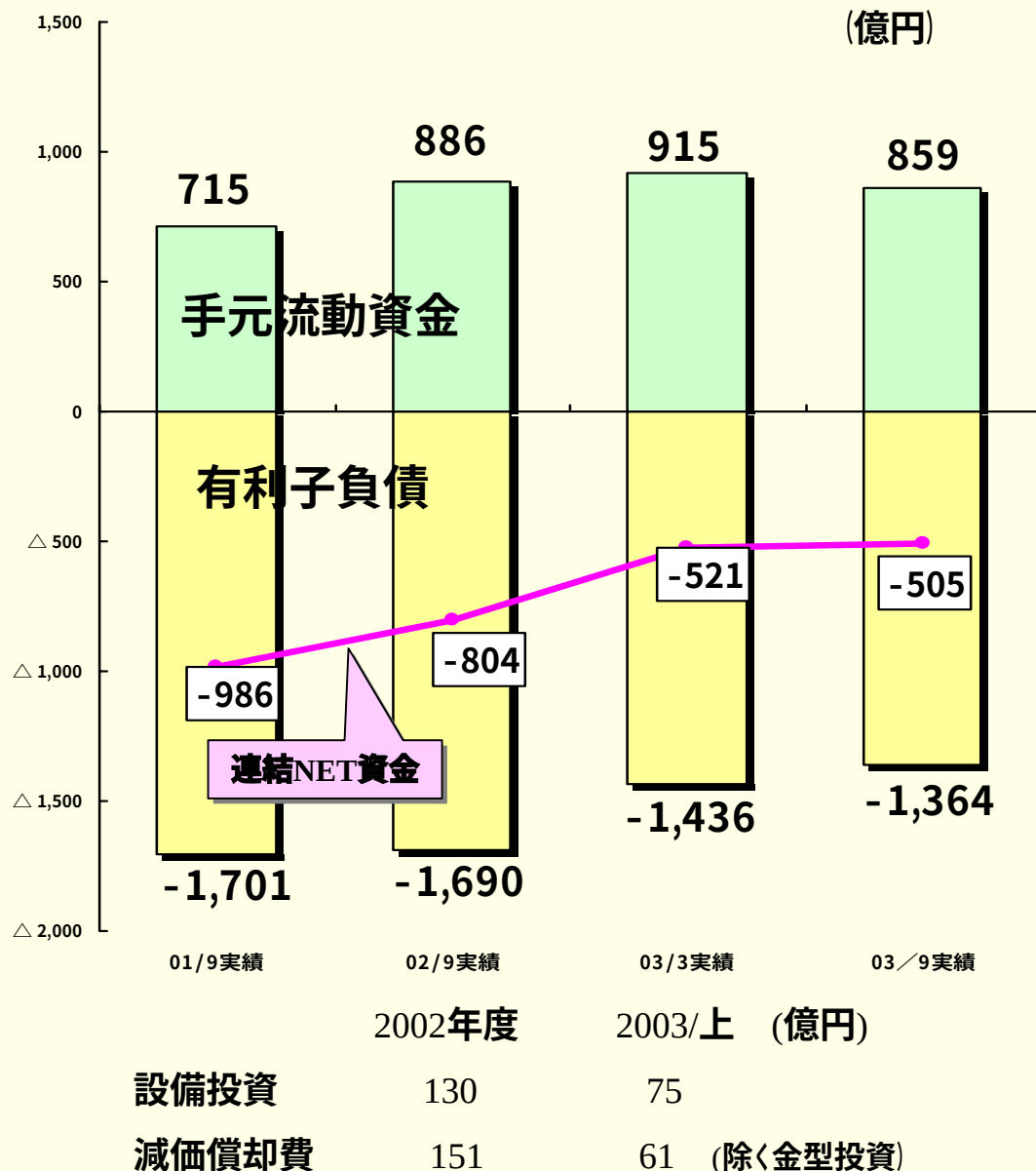


棚卸資産



連結C／F計算書

税引前利益	64
減価償却費	101
棚卸資産	▲ 180
運転資金改善	59
その他	48
営業C／F	92
固定資産	▲ 101
その他	76
投資C／F	▲ 25
フリーキャッシュフロー	67
社債の償還/消却	▲ 63
その他	▲ 1
財務C／F	▲ 64
その他調整	3
現金増減	6
期首残高	834
期末残高	840



2003年度 業績予想

当初公表通り。

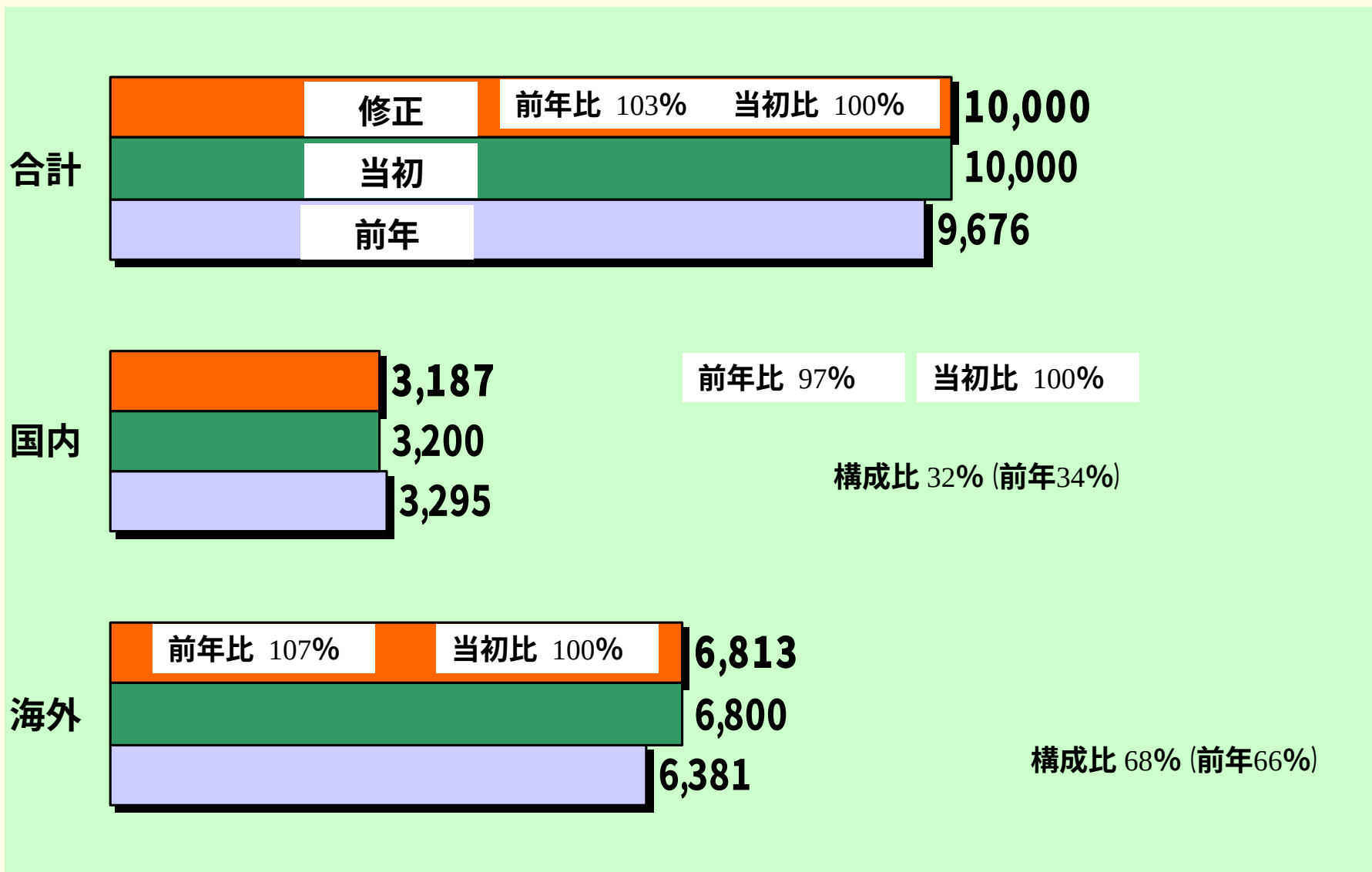
(億円)

<連結>

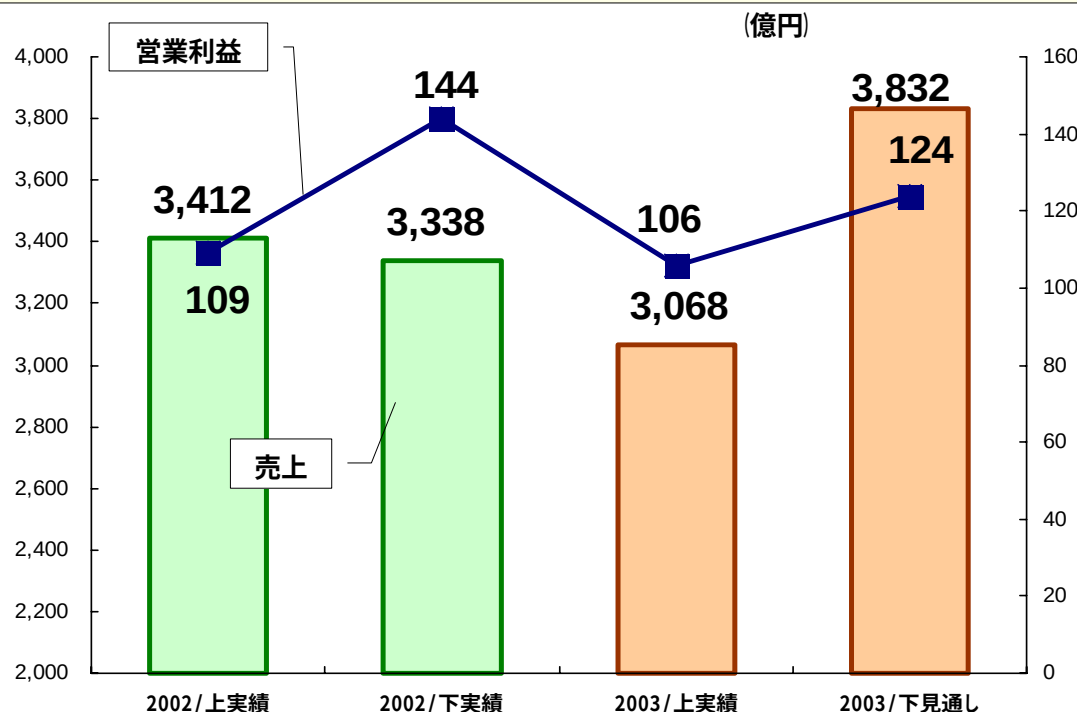
	業績予想	当初公表(4/25)	当初公表差	前年差	前年実績
売上高	10,000	10,000	100%	103%	9,676
営業利益	2.5% 250	2.5% 250	0	27	2.3% 223
経常利益	2.0% 200	2.0% 200	0	27	1.8% 173
純利益	1.1% 110	1.1% 110	0	47	0.7% 63

<単独>

	業績予想	当初公表(4/25)	当初公表差	前年差	前年実績
売上高	5,269	5,269	100%	101%	5,228
営業利益	1.7% 90	1.7% 90	0	17	1.4% 73
経常利益	1.7% 87	1.7% 87	0	29	1.1% 58
純利益	1.2% 65	1.2% 65	0	43	0.4% 22



2003年度 民生分野の状況



■上半期の販売状況

	実績	計画	達成率	前年比
国内	517	580	89%	91%
海外	2,551	2,795	91%	90%
合計	3,068	3,375	91%	90%

(前年比: 海外は現地通貨 ベース)

国内: 薄型TV254%・DVDプレーヤー / レコーダー137%・ビデオデッキ48%

米州: 4:3TV55%・プロジェクションTV165%・ビデオデッキ52%・DVC136%

欧州: DVD132%・PDP425%・DVC109%・ビデオデッキ51%

■上半期の増減要因 (前年差)

【増益要因】

- ・原価改善
- ・為替の良化

【減益要因】

- ・売価ダウン (約10%)
- ・販売の未達

■下半期のポイント

・国内: Only1商品のラインナップ強化・拡販

・米州: 地域量販店での拡販
デジタルTV戦略の強化

・欧州: 新商品の市場導入
(液晶TV・DVDレコーダー)

	2003年見通し	2003年当初	2002年実績	当初比	前年比
売上	6,900	7,000	6,750	99%	102%
営業利益	3.3% 230	3.1% 220	3.7% 253	10	▲ 23

2003年度 産業分野の状況

■上半期の販売状況

	実績	計画	達成率	前年比
国内	228	235	97%	103%
海外	138	145	95%	121%
合計	366	380	96%	109%

(前年比：海外は現地通貨ベース)

国内：セキュリティ101%・プレゼン102%

海外：セキュリティ81%・プレゼン109%

■上半期の増減要因 (前年差)

【増益要因】

・販売増加

・原価改善

【減益要因】

・売価ダウン

■下半期のポイント

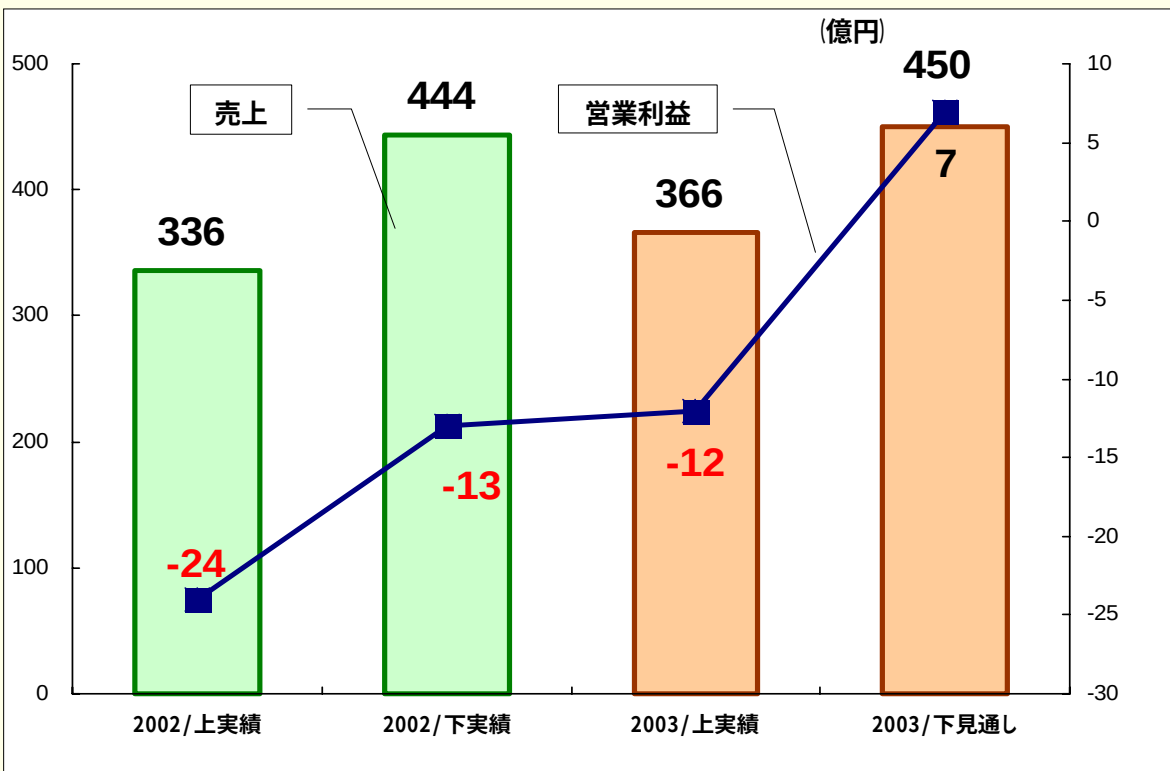
・販売の確保

新商品の導入

引き合い物件の受注化促進

・原価改善

設計VEの推進



	2003年度見通し	2003年当初	2002年実績	当初比	前年比
売上	816	780	710	105%	115%
営業利益	-0.6% ▲ 5	-1.3% ▲ 10	-5.2% ▲ 37	5	32

2003年度 デバイス分野の状況

■上半期の販売状況

	実績	計画	達成率	前年比
国内	18	20	90%	90%
海外	322	330	98%	136%
合計	340	350	97%	133%

除く新規連結会社前年比70%

(前年比)

モータ94%・偏向ヨーク60%・サーキット111%・光Pu67%

■上半期の増減要因 (前年差)

【増益要因】

- ・原価改善
- ・構造改革、固定費削減

【減益要因】

- ・実質販売の減収
- ・売価ダウン

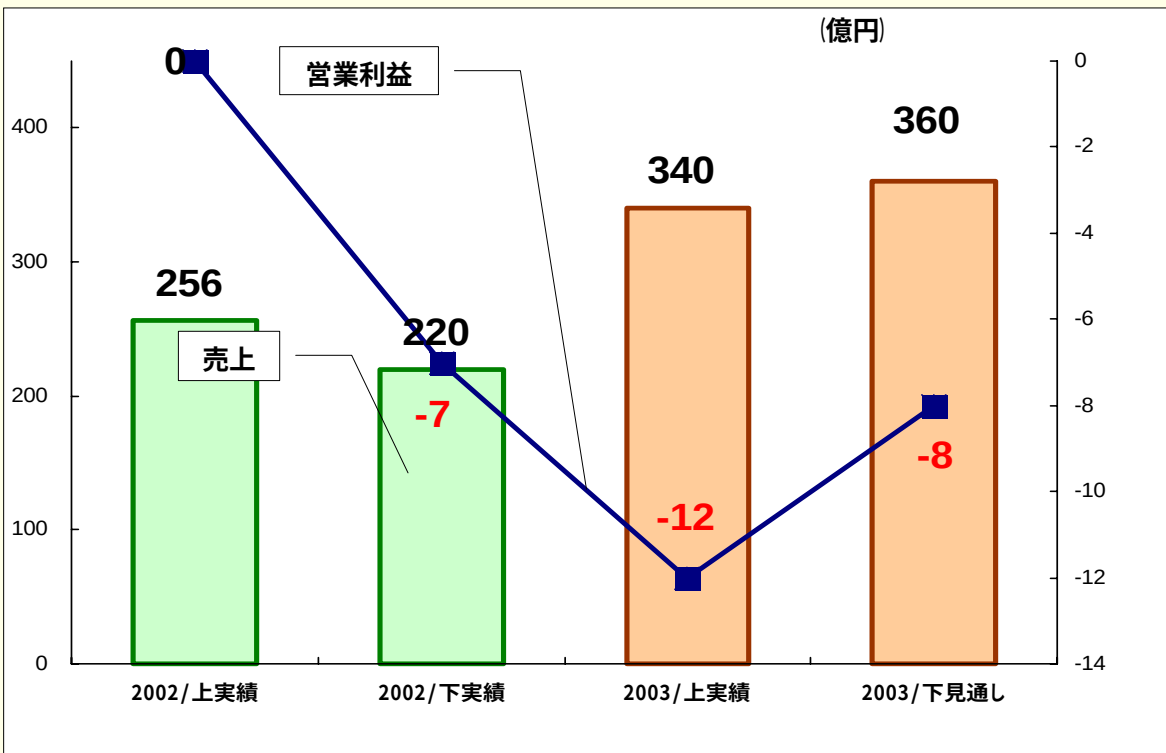
■下半期のポイント

・ものづくり体制の正常化→拡販

FDBモータ生産体制確立

2波長ピックアップの立上げ

(億円)



	2003年見通し	2003年当初	2002年実績	当初比	前年比
売上	700	720	476	97%	147%
営業利益	-2.9% ▲ 20	1.4% 10	-1.5% ▲ 7	▲ 30	▲ 13

2003年度 ソフト・メディア分野の状況

■上半期の販売状況

	実績	計画	達成率	前年比
国内	744	700	106%	94%
海外	78	70	111%	82%
合計	822	770	107%	92%

音楽業界前年比△14%ダウン

■上半期の増減要因 (前年差)

【増益要因】

- ・記録メディアの販売達成
- ・音楽事業の改善
- ・原価改善

【減益要因】

- ・売価ダウン

■下半期のポイント

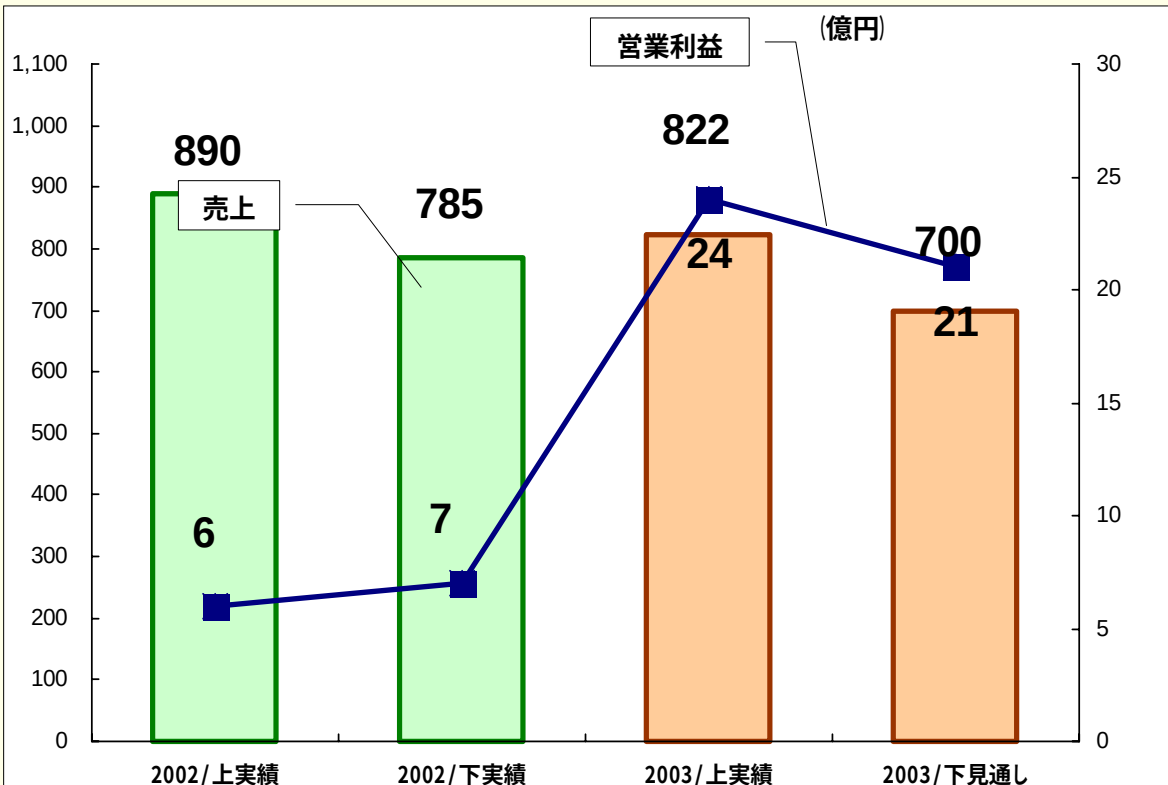
・バリューチェーンの強化

・売価下落への対応

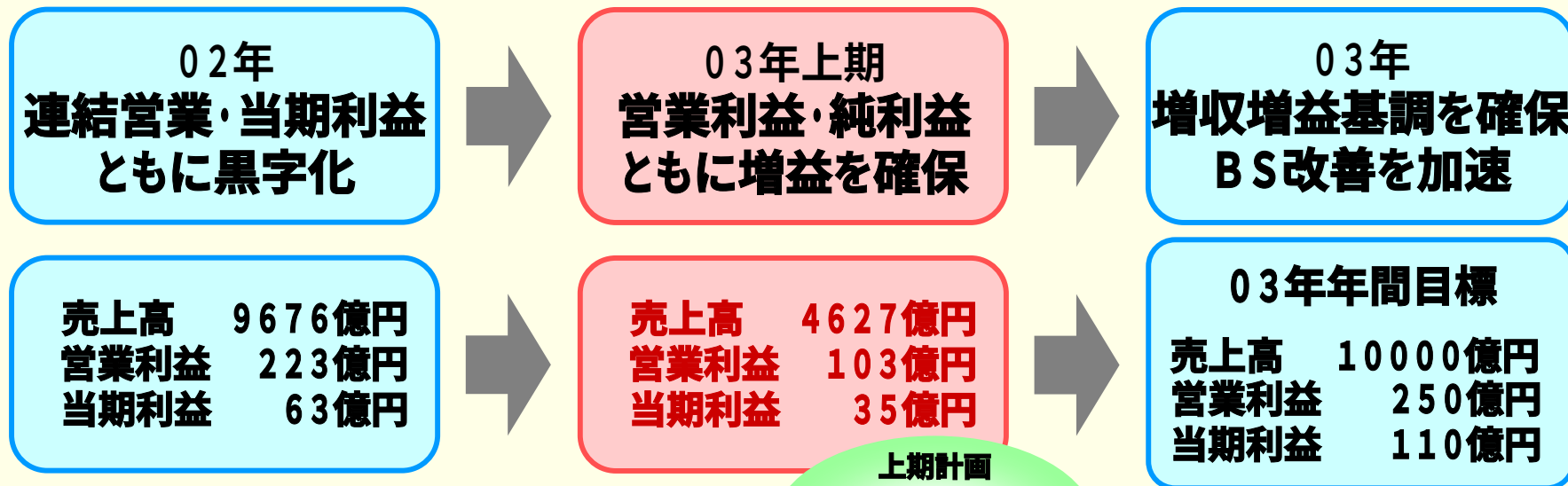
DVCテープ・DVD記録用ディスク

・記録メディアの拡売

間口拡大



	2003年見通し	2003年当初	2002年実績	当初比	前年比
売上	1,522	1,450	1,675	105%	91%
営業利益	3.0% 45	2.1% 30	0.8% 13	15	32



◆2003年度基本方針

- ・引き続き、再生への意識改革の徹底と
経営体質改革の推進を行なう
- ・5重点分野のOnly1商品でシェアアップとブランド価値向上
- ・増収増益基調を確保し、資金造出・BS改善を加速する

2003年度の取り組み・指標

2003年度上期の進捗状況

原価 創造

- ◇キーデバイス安定調達のためのキー・サプライヤー政策
- ◇02年度からの継続テーマの積極推進
(設計VE活動/国内サプライヤー集約/中国部品開発・購買)
- ◇グローバル購買コストダウン 371億

- ◇キーデバイス安定調達
→パートナーシップ強化・メーカー集約
- ◇中国部品開発
→上海ラボセンター設置
- ◇設計VE・購買コストダウン
→上期実績 188億

もの づくり 改革

- ◇設計プロセス改革(2年目)のさらなる推進
- ◇「ものづくり総本山化」プロジェクトの取り組み加速
- ◇量産化技術の強化

- ◇プロジェクト活動で推進中
- ◇DVC, ホームシアター生産海外移管推進
- ◇クロスファンクションチーム活動にて推進中

物流 改革

- ◇物流拠点の集約実行
 - ・米国: (02/3) 5 → (04/3) 4 (→04年度3拠点化)
 - ・欧州: プロ物流拠点統合 3販社別在庫を1拠点へ
 - ・国内: 横浜地区分散倉庫 9ヶ所を3ヶ所へ
- ◇民生ロジスティックス改革スタート

- ◇拠点集約は予定通りに推進中
 - ・米国: 西部新拠点の稼働 (03/6)
 - ・欧州: 在庫移管を推進中
 - ・国内: 横浜新倉庫の稼働 (03/7)
- ◇カンパニー内に専任チーム設置 (4名)

SCM 構築

- ◇民生SCM稼働/業務プロセス・ウィークリー化による高回転経営
日程ターゲット: (03/5) 日本・アジア4工場スタート
(03/9) 米・欧・アジア6工場 (民生全工場スタート)

- 5月DVD SCM稼働
- 7月米州TV SCM稼働
- 下期に6ジャンルにてSCM稼働目標

上期までの ラインアップ



PDP

- ☆50V型を新投入
- ☆地上波デジタル放送対応
- ☆独自高画質技術「新DET」
- ☆高音質「新DDスピーカー
& サブウーハー」

下期のラインアップ



ハイビジョン
+地上波デジタル
+BS・110度CS



ハイビジョン
+地上波デジタル
+BS・110度CS



市場導入 (上期) から、ラインアップ強化によるシェア確保へ！



液晶テレビ

- ☆3モデルを追加し、
ラインアップを強化
- ☆全モデルハイビジョン対応
- ☆「新DET」+
「オブリコーンスピーカー」*



*) 26V/32Vのみ

上期までのラインアップ



マルチフォーマット対応
DVDレコーダー



大ヒット“GR-D200”



DDスピーカー、デジタルアンプ
搭載MDコンポ

DVDレコーダー

- ☆複合機の投入で
ラインアップを強化
- ☆マルチフォーマット対応、
高画質高音質の思想を継承

カムコーダー

- ☆D200で培った“ベビームービー”
ブランド認知を強化

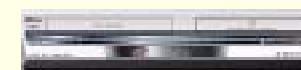
オーディオ

- ☆“音のビクター”として
あくなき“高音質”の追求

下期の新商品



HDD内蔵型



VHS一体型



新型“ベビームービー”



ウッドコーンスピーカー搭載ミニコンポ



DVD & WMD搭載マイクロコンポ

ハイパフォーマンス
グローバルカンパニー

The Perfect Experience

お客様に最高の感動と100%の満足を

音楽と映像で
新しいコミュニケーション
を実現する

寡占の進むAV業界で生き残り、
AV商品（音楽と映像）を通じて
お客様に新しく、豊かな生活を
提案する“Only1”の思想を貫く

感動と満足

Entertainment Solution

デザイン

コンサル
テーション

インスト
レーション

使いやすさ

マーケット・イン
思想の徹底

ハードとソフトの
シナジー

開発・生産・販売
三位一体のスピード

お客様第一

従業員大事

自主責任経営

The Perfect Experience

お客様に最高の感動と100%の満足を

ビクター/JVCは高品位技術で新しいコミュニケーションを提案し、音楽と映像の感動を人々に伝えてゆきます。

“The Perfect Experience”とは、

ビクター/JVCの技術で、商品で、お客様に最高の感動を演出すること。そしてお客様の生活に潤いを与え、また、その使用シーンにおいて、生涯満足をいただくというビクターの約束です。